

特別養護老人ホーム伏尾荘の秋祭りに参加

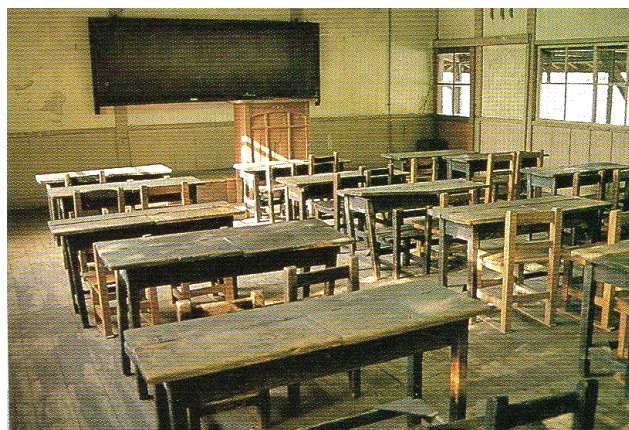
11月13日(日)、池田市の特別養護老人ホーム伏尾荘の20周年記念秋祭りにボランティアとしてわかばの会から7名が参加。好天に恵まれた当日は、施設と周囲の紅葉に映えた久安寺内の2会場で開催。私たちも半被に替え、介助をしながらイベント会場に向いました。中学生の合唱、高校生の踊り、地区の太鼓ばやし等を楽しみひととき。会場にはたこ焼き・鯛焼き・ラーメン・飲み物コーナーもあり、入居者の家族も来られ、楽しく食事をされました。皆さん、日曜日のお疲れ様でした。(木村良三)

「散策の会」——千里中央近辺を歩く

11月5日の散策は上新田天神社から始めました。以前は竹林に囲まれた風情のある小道でしたが、今は開発のためほとんどが伐り倒されていました。ただ神社を取りまく鎮守の森は残っていました。参拝の後、チラシをみて驚きました。拝殿の後ろに、3棟の14階建てマンションが建つという現実、400年続いてきた穏やかな環境が開発の名の元になくなってしまふ、本当に心寂しい思いがしました。

その後向かった旧新田小学校は築100年を迎え、大阪では一番古く、そのために特別公開日を設けていました。扉を開けると着物姿の子供たちが飛びだしてきそうな雰囲気。中には机・椅子・オルガン、時代を追っての教科書も並べられ、壁にはそれぞれの時代を映す写真が貼られ、参加者は懐かしい想いで見つめ、話し合っていました。

南千里で昼食の後、プラネタリウムでは秋の夜空の下で星の神話を聞きました。日頃ほとんど星の見えない昨今、ゆったりと椅子に寝転んで映された星を眺めたのも楽しいひとときでした。(吉田光代)



第3ブロック会を開催しました

地域の皆さんの“顔が見える”という趣旨で、第1回第3ブロック会を11月25日午後1時30分から、千里中央コラボにて開催しました。11名の会員が参加、自己紹介から始まり、会へのご要望やご意見等を中心に、お茶とお菓子をいただきながら話し合い、和やかな時間を持つことができました。次回は1月22日(日)同じ場所、同じ時間で開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。(青木昭夫)

「東大阪地域支え合いづくり」のセミナーに参加して

11月27日にクリエイション・コア東大阪で開催されたセミナーにわかばの会から3名参加しました。このセミナーはナルク東大阪が事務局として開催したものです。

第1部は、さわやか福祉財団の堀田力氏が「最後まで自宅で暮らせる町へ～いきがいを貫く人生～」と題しての基調講演。住み慣れた地域で、馴染みの関係の中で、安心して暮らすために、つながり・支え合い・助け合える、地域包括ケアの町づくりが急務で、各自自治体に働きかけているとの話でした。

第2部は「支え合う地域づくりへ…私たちにできること」のテーマでパネルディスカッション。パネラーの1人としてナルクの高畑会長も参加しました。在宅緩和ケアの取組みの必要性、人々のふれ合い、つながり合い、語り合う「場」と「関係」づくり、地域の身近な相談窓口としての地域福祉活動のネットワーク作り等、多くの取組み実績の報告や提言がありました。

これからの社会福祉、地域福祉は、〈自助〉+〈共助〉+〈公助〉の考え方で、「助け上手、助けられ上手」の関係を住民相互で支え合いながら作り上げる重要性を学びました。(清水正弘)